

さらに住みよく、
賑わい、
魅力のある
小諸となるように

小諸市長

小泉 俊博



新年あけましておめでとうござい
ます。皆様におかれましては、希望に満ち
た輝かしい新春をお迎えのこととお慶
び申し上げます。また、平素は小諸市政
の推進にご理解とご協力を賜り、厚く
御礼申し上げます。

昨年4月の小諸市長選挙において、
多くの市民の皆さまにご支持いただ
き、二度、小諸市政の舵取りの重責を担
わせていただくこととなりました。こ
れまで2期8年、「小諸に元氣と誇りを
取りもどす」の旗印のもと、様々なこと
に挑戦し、人口の社会増や企業・店舗誘
致、まちの賑わい創出、ふるさと納税の
増額やシティブロモーション、子育て
支援、福祉施策といった目に見える形
になってきた成果はもとより、公約と
して掲げた様々な施策や事業など、市
政運営全般に対し、多くの評価、理解、
支持が得られ、市政の継続を託された
ものと考えております。

私としては、託して頂きました

この4年間を、これまでの8年間をた
だ踏襲していくのではなく、選挙を通
じていただいた様々な声を市政に反映
すべく、これまでにない新たな取り組
みにも挑戦し、全身全霊で市政経営に
あたって参る所存であります。

《選ばれるまちになるように》

この数年、小諸市は転入超過、人口の
社会増が続いています。令和5年は、転
入者が転出者を289人上回り、県内
では5番目に多い人数となりました。
本稿を執筆している令和6年12月現在
も転入超過となっているため、残りひ
と月も同様に推移した場合、5年連続
の社会増となります。

また、市内への出店も相次いでおり、
ここ数年で50店舗ほどの新規出店があ
りました。この様な状況が県内外で注
目され、各種メディアで取り上げられ
ることが増え、県内の新聞、テレビにと
どまらず、全国ネットのテレビでも元
気なまちとして紹介されるほど注目を

集めています。

こうした動きは行政主導のものでは
なく、「おしゃれ田舎プロジェクト」と
いった民間団体による出店のサポート
や移住者のネットワーク、人が人を呼
ぶといった好循環などによる理由が大
きいと考えております。また、移住や出
店をした方々は、小諸に住む人々のあ
たたかさや移住者を受け入れてくれる
人柄、土地柄に心を惹きつけられて決
断したと話す方が多くいます。

この様に、コンパクトシティやウエ
ルネスシティといった行政の取り組
みだけでなく、商工会議所や観光局と
いった民間の団体、企業、市民の皆さま
による小諸市を元気にしようという気
持ちや行動が結びつき、この様な状況
が生まれてきているものと考えており
ます。

小諸市は、昨年、市制施行70周年を迎
えました。今を生きる私たちにとつて、
先人たちが築き上げ、残してくれたこ

の素晴らしい小諸をさらに発展させ、
未来に引き継いでいくことが責務であ
ります。少子高齢化と急激な人口減少
といった喫緊の課題がある中で、持続
可能な地域社会を維持していくため、
子育て環境、教育、福祉の充実、商工業
の振興、脱炭素、社会インフラの維持・
整備など様々な重要施策に取り組んで
いかなければなりません。しかし、これ
らいずれの課題も行政だけで乗り越え
られるものではありません。

市としては、これからも市民の
皆さまと手を携えて素晴らしい未来を
築いていきたいと考えております。

本年が皆様にとりまして健康で希望
に満ちた実り多き年になりますようご
祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせて
いただきます。

信頼される市議会、
見える化された議会運営を
目指して

新年あけましておめでとうございま
す。市民の皆様には、明るい希望に満
ちた、夢多き新春をお迎えのこととお
慶び申し上げます。年頭に当たり、小
諸市議会を代表して、謹んで新年のご
挨拶を申し上げます。

私、議長の職に就き、2回目の新年
を迎えております。就任以来、市政の
進展と円滑な議会運営に微力をささげ
てまいりましたが、この間、市民の皆
様からお寄せいただいた、温かいご指
導やご厚情に対し、心より感謝とお礼
を申し上げます。

さて、昨年一年間を振り返りますと、
新年早々に発生しました震度7の石
川・能登半島地震ではじまり、地域防
災力の課題解決や、コロナ禍を経ての
社会経済活動の正常化の各種の取り組
みが進められ、新しい社会づくりが求
められています。また、エネルギーや
原材料価格の高騰が続く、記録的な物
価高により、日常生活への影響が今も
続いています。社会・経済活動の正常
化には、いまだ厳しい状況で、さら
には地域社会のつながりや関心の希薄化
など、克服すべき多くの課題を抱えて

おり、行政需要は複雑多様化し、我々
の果たす役割は、ますます大きくなっ
ていると感じております。

このような中、すぐに回復すること
は難しいこととは思いますが、引き続
き、国を挙げての各種支援策を強く要
望していくとともに、議会としまして
も行政と一丸になって、しっかりと取
り組んでまいりたいと思っております。
基礎自治体としての市民の皆様
に直結する、子育て支援策、生活基盤整
備、脱炭素社会づくり、そして、誰も
が健康で支え合う地域共生社会づくり

には、議会としての立場から各種施策・
事業をしっかりと把握し、市政運営の
チェックを行ってまいりたいと考えて
おります。

《議員一丸となり、前に進む》

小諸市議会では、一昨年の1月に市
議会議員選挙が執行され、第19次の前
期がスタートしていますが、市民に信
頼される市議会、市民に見える化され
た議会運営を進めなければならないと
考えており、様々な市議会の課題に関
しましては、議長諮問として、『明る
い議会、緊張感のある議会、議員が一
丸となれる議会を目指す』をスローガ
ンに、議員主導での議員間での勉強会
の開催や、市内各分野の団体との意見
交換会の取り組みを実施してまいりま
した。また、昨年度に引き続き本年度
も、行政視察報告書を精査し、市長へ
提言書を提出しました。本年2月から
は、第19次の後期がスタートする訳で

ございますが、少子高齢社会における
様々な課題に対応するための議会間での
広域連携の推進を図るなど、議会本
来の議決機関・チェック機関の役割の
充実と併せまして、市民の皆様にお知
らせしながら、引き続き議会改革を推
進し、市政発展のため、住み良さを実
感し、誇りの持てる「住みたい 行きた
い 帰ってきたいまち 小諸」を目指し
て、議員一同さらに努力してまいる所
存でありますので、皆様のご協力を賜
りますようお願い申し上げます。

結びに、全議員が、議会としての果
たす役割・責任を十分認識し、市民の
皆様とともに、活力にあふれる魅力あ
る小諸市を目指してまいりますので、
これからも更なるお力添えを賜ります
ようお願い申し上げますとともに、市
民の皆様方の今年一年のご健勝とご多
幸を心より祈念申し上げます、年頭
のご挨拶とさせていただきます。

小諸市議会 議長

丸山 正昭

